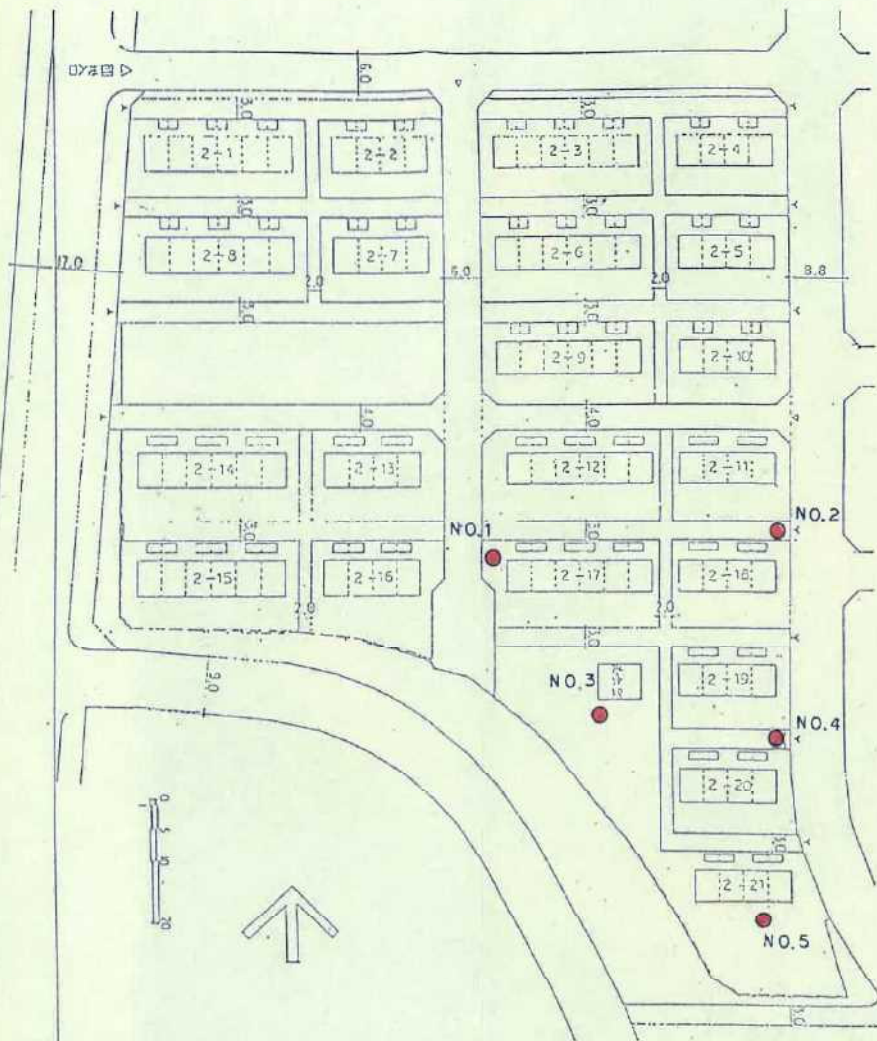


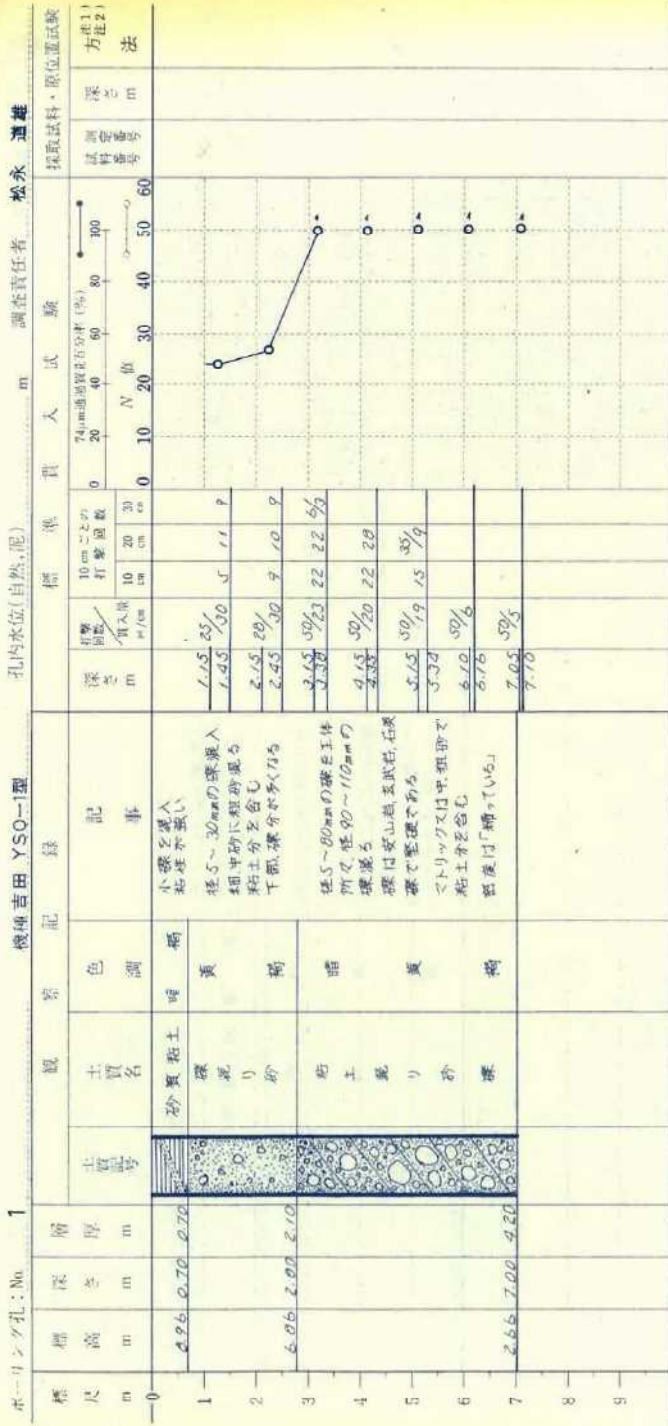
調査位置図



調査名 平成5年度 県営明野住宅Aブロック新築工事地質調査委託

調査地点 大分市明野西町

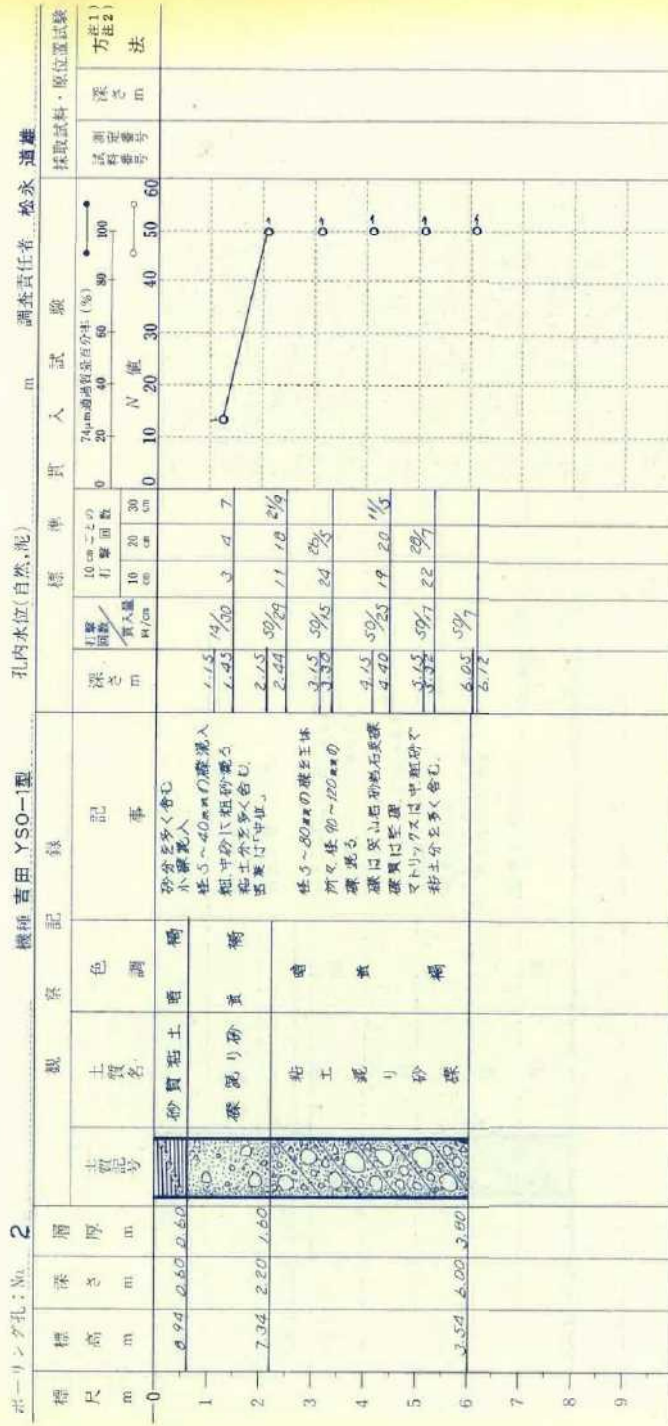
調査年月日 5年 5月 日
 標高 9.66 m
 調査責任者 松永 道雄



調査名 平成5年度 県営明野住宅Aブロック新築工事地質調査委託

調査地点 大分市明野西町

調査年月日 5年 5月 日
 標高 9.54 m
 調査責任者 松永 道雄



土質柱状図

報告用紙

調査名 平成5年度 県営明野住宅Aブロック新築工事地質調査委託

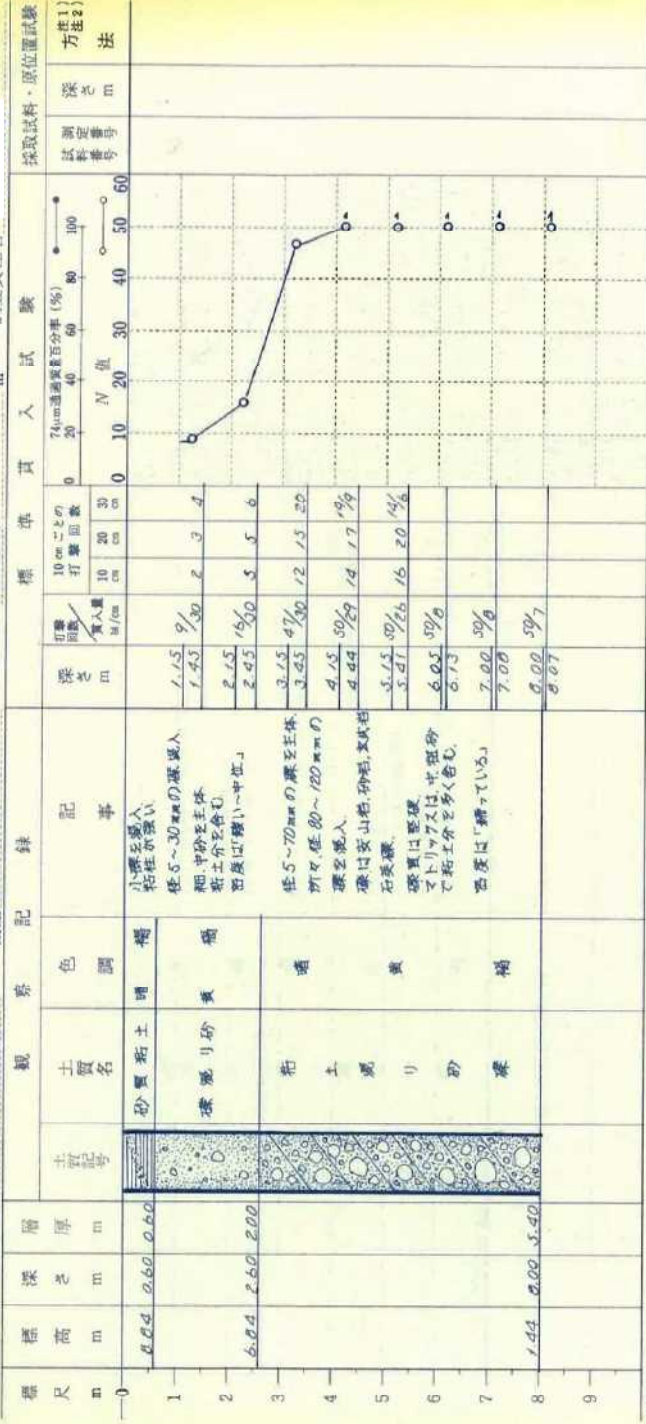
調査地点 大分市明野西町

調査年月日 5年 5月 日

標高 9.44 m

調査年月日 5年 5月 日

ボーリング孔: No. 3 機種 吉田 YSO-1型 孔内水位(自然, 泥) 調査責任者



備考

注1) 試料採取方法の記号
T: シンクウォールサンプリング
P: 標準貫入試験用サンプリング
D: デニソン型サンプリング

注2) 原位置試験方法の記号

(社)土質工学会 [不詳型] 1102

土質柱状図

報告用紙

調査名 平成5年度 県営明野住宅Aブロック新築工事地質調査委託

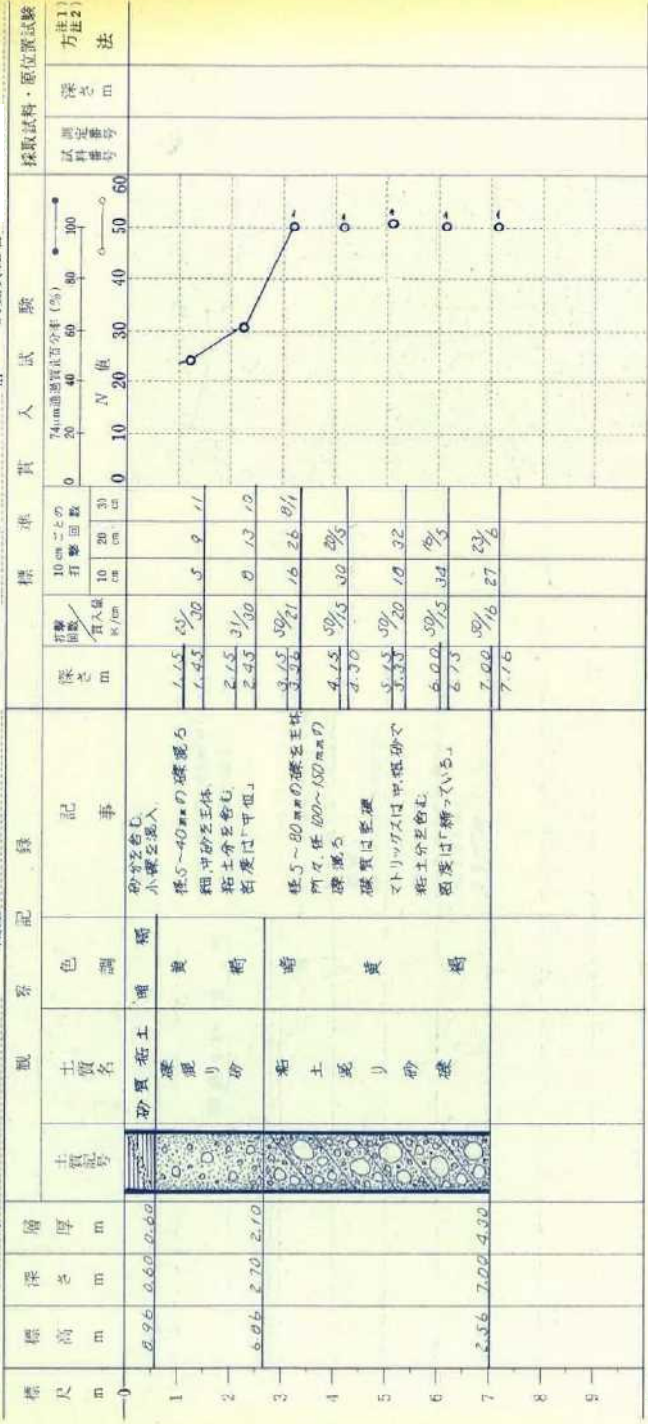
調査地点 大分市明野西町

調査年月日 5年 5月 日

標高 9.56 m

調査年月日 5年 5月 日

ボーリング孔: No. 4 機種 吉田 YSO-1型 孔内水位(自然, 泥) 調査責任者



備考

注1) 試料採取方法の記号
T: シンクウォールサンプリング
P: 標準貫入試験用サンプリング
D: デニソン型サンプリング

注2) 原位置試験方法の記号

(社)土質工学会 [不詳型] 1102

土質柱状図 報告用紙

調査名 平成5年度 県営明野住宅Aブロック新築工事地質調査委託

調査地点 太田市明野西町

調査年月日 5年 5月 日

標高 9.58 m

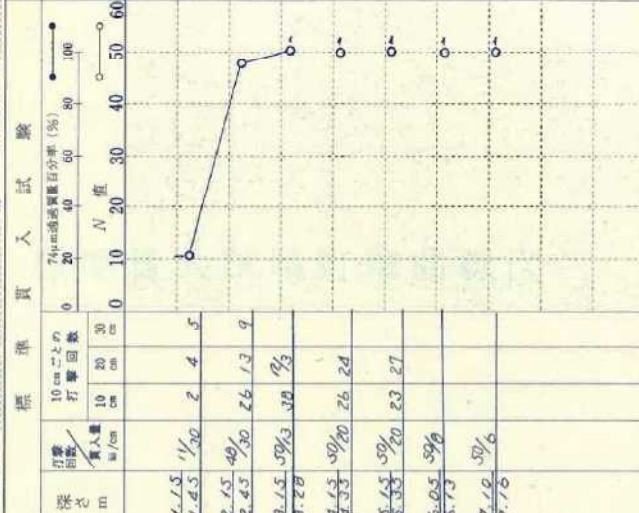
調査責任者

機種 吉田 YSO-1型

孔内水位(自然、泥)

ボーリング孔: No. 5

標尺 m	層厚 m	深さ m	標高 m	観察記録		採取試料・原位置試験方法
				土質名	色調	
0						
1	0.70	0.70	8.88	初質粘土	暗褐色	
2				硬泥り砂	黄褐色	
3	2.00	2.10	6.70	粘土	暗褐色	
4				土質り砂	黄褐色	
5				砂	黄褐色	
6						
7	1.00	4.20	2.50			
8						
9						



備考

注1) 試料採取方法の記号

- T: シンワイルサンプルプラー
- P: 標準貫入試験用サンプルプラー
- D: デニソン型サンプルプラー
- F: フォイルサンプルプラー
- O: オーガー

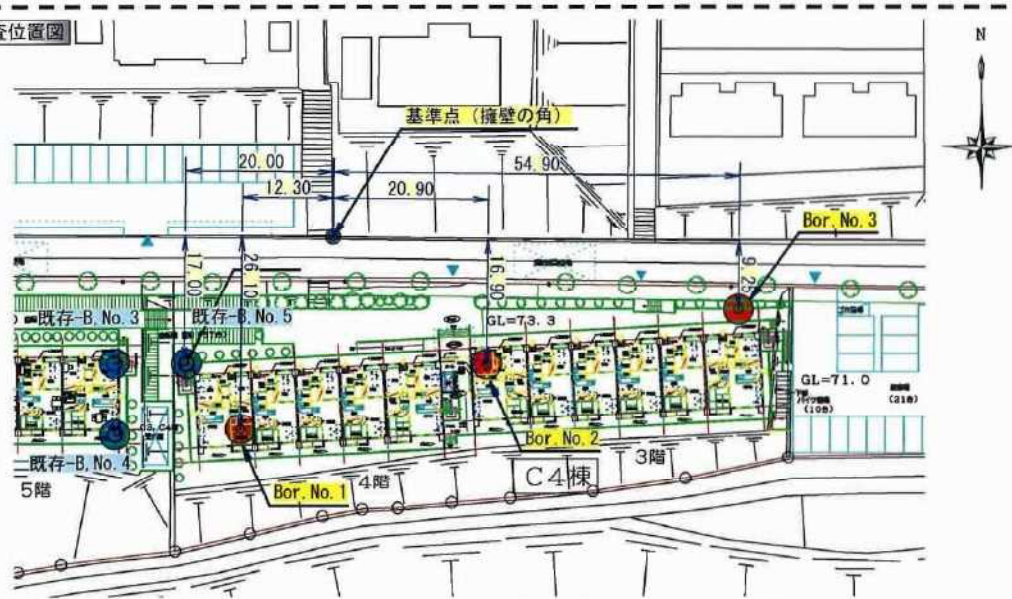
注2) 原位置試験方法の記号

調査結果の概要

調査の事前には、調査職員と現地立会打合せを実施して、調査地点・内容・目的等も確認の上で現地調査を行った。
調査期間中においては、ボーリング調査状況を随時連絡の上で、調査完了深度を協議の上で決定し、調査の適正に最大限努めた。
また、ボーリング調査位置の基準点は、下図及び右写真に示す



調査位置図



地質構成と区分目安

表-1.2.2 今回調査の地層区分凡例

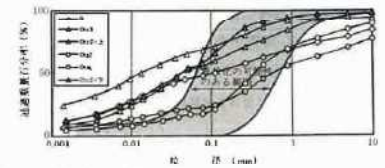
地質時代	地質区分		N値	記 事
	地質名	記号		
完新世	埋土	B	6	地点により構成が若干異なる不均質な埋土。全体的には硬質砂質粘性土が主体(maxφ50mm程度)。マサ土や耕作土も包括する。
	黒ボク・赤ボク	Av	(3~5)	火山灰質の粘性土。上部は有機質な黒ボク、下部はφ5mm以下の含む赤ボク。今回調査では明確な区分ができず、一部は埋土に包括。
更新世、大分層群	砂礫	Otg3	(21~24)	礫はφ2~30mm程度の亜角や角礫主体。隙間はシルト質砂が充填する。今回の調査では未確認。
	硬泥り粘性土~粘性土	Otc3	2~9	固結シルトの風化進行部で、軟らかい~中位の相対稠度。均質な粘性土状のもの主体で、部分的に砂層の挟在や硬泥入(maxφ30mm)の多い深層もある。含水多く、粘性が高い。
	砂礫	Otg2	11~33	第3号棟では未確認。3-1号棟と今回調査時は確認される。Otc2とOtc3の間にレンズ状に分布する。礫はφ20mm程度まで主体で、一部はφ35mm程度まで含む。
	砂~砂礫	Otg	40~58	Otc2中に挟まれる硬泥り砂~砂礫。礫はφ2~30mm程度まで主体。砂は地点・深層により異なり、固結する箇所もある。
	固結シルト	Otc2	8~83	固結度の高いシルト。コアは短柱状~棒状主体の固結土が採取される。部分的に砂層の薄層を挟在。下部は固結度が高くなる。
	固結砂	Ots	58~60	固結した状態の砂。構成粒子は地点・深層により異なり、細~粗粒のものあり。
	固結シルト	Otc1	83	第3号棟では未確認。3-1号棟と今回調査時は確認される。Otg1中に挟まれる固結シルト。淡黄灰色~青灰色を呈す固結シルトで、固結度は高い。
砂礫	Otg1	58~188	礫はφ2~50mm程度の亜角や角礫主体。部分的にはφ100mm大のもの混入する。隙間はシルト質砂が充填し、密である(弱固結)。砂層の挟在部あり。	

※1. 地質区分は「住要第1002-23号 明野住宅地質調査委託 H16.7 日本地研株式会社」を踏襲。
※2. Av, Otg3は今回の調査範囲では未確認。N値及び記事は既存調査による。
※3. 上記N値は検定による過大値や希少な過大値は除外。

液状化検討について

今回は、① F_L 値法による液状化検討、②地形的観点からの液状化検討、③粒度分布からの液状化検討をそれぞれ実施した結果、いずれの検討からも液状化の可能性は低いと判定された。
①の検討結果は、以下のとおりで、いずれも F_L 値 ≥ 1 である。
③の結果は、右図のとおりである。
★設定マグニチュードは $M=7.5$ 、地表面加速度は200gal、350galとした(特記仕様書によった)。

粒度分布からの液状化検討



②の地形的観点からは、調査地は更新世の滝尾層によって構成される洪積台地であり、続成作用の進行した固結土が卓越することから、液状化の可能性は低いと判断される。
また、このほかに、既存資料(内閣府・大分市ホームページ)においても、液状化危険度がかなり低い地域に該当している。
①②③の結果や既存資料の取集結果を総合して、調査敷地の液状化の可能性は低いと考えられる。

表-1.2.3 液状化検討結果総括表

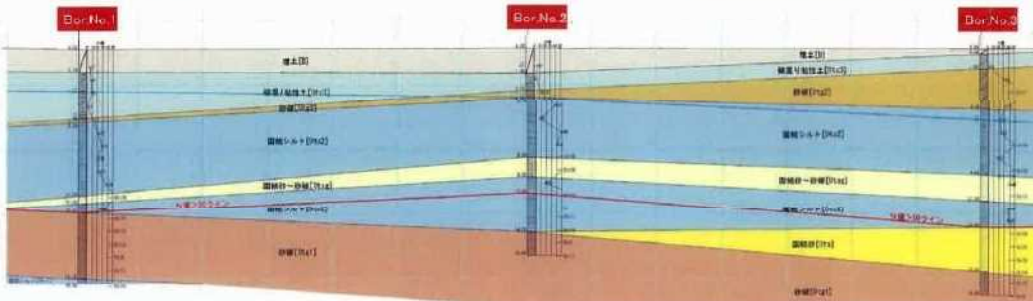
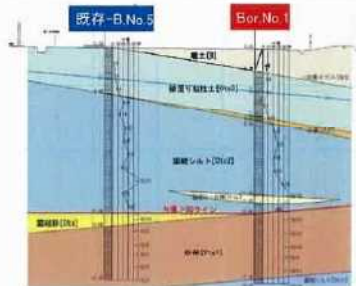
地質時代	地質区分		土質区分	代表N値	細粒含有率		安全率 F_L		液状化発生の危険度
	地質名	記号			Fc(%)	200gal	350gal		
完新世	埋土	B	粘性土	6	47.4	—	—	低い	
	硬泥り粘性土~粘性土	Otc3	粘性土	8	67.7	—	—	低い	
更新世	砂礫	Otg2	砂質土~礫質土	22	22.8	2.48~4.91	1.08~2.81	低い	
	砂~砂礫	Otg	砂質土	51	17.5	3.51~5.00	2.11~2.25	低い	
	固結シルト	Otc2	固結土(粘性系)	32	54.7~57.2	—	—	低い	
	固結砂	Ots	固結土(砂質系)	60	—	—	—	低い	
	固結シルト	Otc1	固結土(粘性系)	83	—	—	—	低い	
	砂礫	Otg1	礫質土	117	—	—	—	低い	

調査結果諸元と地質想定断面図

- 支持地盤はN値 ≥ 50 を連続的に示すOtc2&1, Ots, Otg1が適当。
- 基礎形式は杭基礎等の間接基礎の検討が必要。

表-1.2.1 各地点の調査結果の諸元

孔番	地盤高(m)	掘進長(m)	N値 ≥ 50 の深度(m)	地下水位(安定水位)
Bor.No.1	47.73	18.00	12.60	5.10
Bor.No.2	47.80	16.00	13.00	3.70
Bor.No.3	47.71	19.00	13.80	5.30
既存-B.No.5	47.98	18.00	12.80	2.45



ボーリング柱状図

調査名 平成23年度住委第2301-23号明野野住宅MRR-4地質調査委託

ボーリングNo	
---------	--

事業・工事名

ボーリング名	BoT. No. 1		調査位置	大分市明野西1丁目		北緯
発注機関	大分県土木建築部施設整備課		調査期間	平成24年1月25日～24年3月23日		東経
調査業者名	主任技師		現場代理人	アコ鑑定者		ボーリング責任者
孔口標高	47.73m	方位	北0°	東90°	南180°	西270°
総掘進長	18.00m	角	上下0°	左右0°	前後0°	
		使用機種	ハンマー落下ポンプ		東邦地下工機 NFD9K	
		エンジン	ヤンマー		NFD9K	
			試験機		D0-D型	
			ポンプ		ハンマー落下ポンプ	
			試験機		D0-D型	
			ポンプ		ハンマー落下ポンプ	

標尺	層厚 (m)	柱状図	土質区分	色相対称度	対称度	記	標準貫入試験		原位置試験結果	試験採取方法					
							深度 (m)	N値							
1	46.00	1.70	1.70	暗褐色	中位	表層10cmは砕石主体、硬さはφ30mm程度以上あり、上部から下部にかけては徐々に土質が軟化する。粘性土主体、中層には硬質土質が混在し、下部には硬質土質が混在している。粘性土主体、上部から下部にかけては徐々に土質が軟化する。粘性土主体、中層には硬質土質が混在し、下部には硬質土質が混在している。	1	2	3	5	30	6			
2				灰褐色	中位	硬質土質が混在している。粘性土主体、上部から下部にかけては徐々に土質が軟化する。粘性土主体、中層には硬質土質が混在し、下部には硬質土質が混在している。	2	3	3	3	8	30	8		
3				灰褐色	中位	硬質土質が混在している。粘性土主体、上部から下部にかけては徐々に土質が軟化する。粘性土主体、中層には硬質土質が混在し、下部には硬質土質が混在している。	3	3	3	3	9	30	9		
4				灰褐色	中位	硬質土質が混在している。粘性土主体、上部から下部にかけては徐々に土質が軟化する。粘性土主体、中層には硬質土質が混在し、下部には硬質土質が混在している。	4	1	1	1	15	30	2		
5	42.53	2.50	5.20	砂質	中位	砂質土質、硬質土質が混在している。粘性土主体、上部から下部にかけては徐々に土質が軟化する。粘性土主体、中層には硬質土質が混在し、下部には硬質土質が混在している。	5	5	5	5	11	30	11		
6	42.23	0.30	5.50	砂質	中位	砂質土質、硬質土質が混在している。粘性土主体、上部から下部にかけては徐々に土質が軟化する。粘性土主体、中層には硬質土質が混在し、下部には硬質土質が混在している。	6	7	7	7	22	30	22		
7				砂質	中位	砂質土質、硬質土質が混在している。粘性土主体、上部から下部にかけては徐々に土質が軟化する。粘性土主体、中層には硬質土質が混在し、下部には硬質土質が混在している。	7	11	10	8	29	30	29		
8				砂質	中位	砂質土質、硬質土質が混在している。粘性土主体、上部から下部にかけては徐々に土質が軟化する。粘性土主体、中層には硬質土質が混在し、下部には硬質土質が混在している。	8	6	7	9	22	30	22		
9				砂質	中位	砂質土質、硬質土質が混在している。粘性土主体、上部から下部にかけては徐々に土質が軟化する。粘性土主体、中層には硬質土質が混在し、下部には硬質土質が混在している。	9	5	7	11	23	30	23		
10				砂質	中位	砂質土質、硬質土質が混在している。粘性土主体、上部から下部にかけては徐々に土質が軟化する。粘性土主体、中層には硬質土質が混在し、下部には硬質土質が混在している。	10	11	14	13	38	30	38		
11	36.53	5.70	11.20	砂質	中位	砂質土質、硬質土質が混在している。粘性土主体、上部から下部にかけては徐々に土質が軟化する。粘性土主体、中層には硬質土質が混在し、下部には硬質土質が混在している。	11	17	22	50	50	30	26		
12	35.53	0.60	11.80	砂質	中位	砂質土質、硬質土質が混在している。粘性土主体、上部から下部にかけては徐々に土質が軟化する。粘性土主体、中層には硬質土質が混在し、下部には硬質土質が混在している。	12	7	8	11	26	30	26		
13	35.13	0.90	12.60	砂質	中位	砂質土質、硬質土質が混在している。粘性土主体、上部から下部にかけては徐々に土質が軟化する。粘性土主体、中層には硬質土質が混在し、下部には硬質土質が混在している。	13	34	18	3	50	30	26		
14				砂質	中位	砂質土質、硬質土質が混在している。粘性土主体、上部から下部にかけては徐々に土質が軟化する。粘性土主体、中層には硬質土質が混在し、下部には硬質土質が混在している。	14	36	14	3	50	30	26		
15				砂質	中位	砂質土質、硬質土質が混在している。粘性土主体、上部から下部にかけては徐々に土質が軟化する。粘性土主体、中層には硬質土質が混在し、下部には硬質土質が混在している。	15	17	33	8	50	30	26		
16				砂質	中位	砂質土質、硬質土質が混在している。粘性土主体、上部から下部にかけては徐々に土質が軟化する。粘性土主体、中層には硬質土質が混在し、下部には硬質土質が混在している。	16	50	8	50	18	83	83		
17				砂質	中位	砂質土質、硬質土質が混在している。粘性土主体、上部から下部にかけては徐々に土質が軟化する。粘性土主体、中層には硬質土質が混在し、下部には硬質土質が混在している。	17	39	11	1	50	11	136		
18	30.03	5.10	17.70	砂質	中位	砂質土質、硬質土質が混在している。粘性土主体、上部から下部にかけては徐々に土質が軟化する。粘性土主体、中層には硬質土質が混在し、下部には硬質土質が混在している。	18	25	21	8	50	18	83		
19	29.73	0.30	18.00	砂質	中位	砂質土質、硬質土質が混在している。粘性土主体、上部から下部にかけては徐々に土質が軟化する。粘性土主体、中層には硬質土質が混在し、下部には硬質土質が混在している。	19								

ボーリング柱状図

調査名 平成23年度住委第2301-23号野野住宅MRR-4地質調査委託

ボーリングNo	
---------	--

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	Bor. No. 2	調査位置	大分市明野西1丁目	北緯
発注機関	大分県土木建築部施設整備課			
調査業者名	主任技師	調査期間	平成24年1月25日～24年3月23日	東経
孔口標高 41.80m	方角 北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	現場代理人	コアア コアダマ	ボーリング責任者
総掘進長 15.00m	地盤勾配 水平0° 鉛直90°	使用機種	東邦地下工機 D0-D型ハンマー落下用具	半自動落下
	エンジン	ポンプ	ヤンマー NFD9K	東邦地下工機 BG-3C

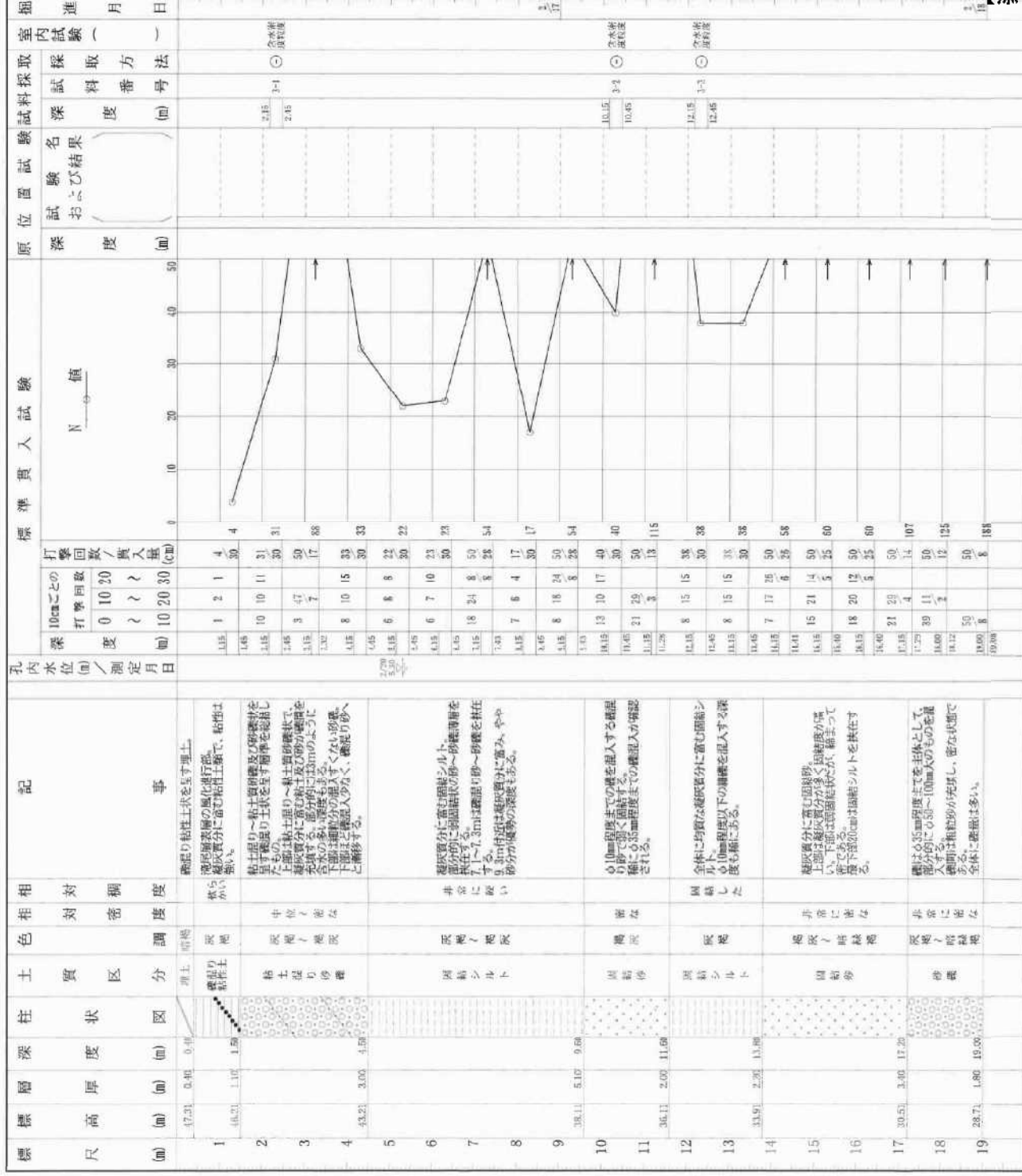
標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	柱状図	土質区分	色相対密度	相対稠密度	相対密実度	記	標準貫入試験		試験結果		原位置試験深度 (m)	採取		室内試験 ()	進月日
									10cmごとの打撃回数 0 10 20	N値	試験番号	試験方法		試験深度 (m)	試験結果		
1	45.90	1.30		埋土	緑	緑	中位	埋土 埋土にはシルト成分が多く、砂質シルト質砂状である。密度は約1.00mm程度の空隙を有し、縦方向に100mm程度の断面を呈する。	1.15	1	1	3	1.15	2-1	○	含水率	12
2	44.60	1.30		盛り粘土	灰	灰	中位	地層断面の風化進行部。採取材料は堅結成が弱く、軋して粘土状を示す。	1.45	1	1	3	1.45	2-1	○	含水率	13
3	44.10	0.50		粘土	灰	灰	軟弱	粘土状を示す。部分に硬質部を有する。	2.15	2	5	7	2.15	2-2	○	含水率	
4		0.50		粘土	灰	灰	軟弱	硬質部に層状に分布。粘性は強い。30cm程度までの砂層が連続して存在する。	2.45	6	11	30	2.45	2-2	○	含水率	
5		0.50		粘土	灰	灰	軟弱	硬質部が連続して存在する。	3.45	3	2	3	3.45	2-3	○	含水率	
6	39.30	4.60		団結シルト	灰	灰	中位	団結部が豊富に存在する。硬質部を有する。硬質部には約2mm程度の空隙を有し、縦方向に100mm程度の断面を呈する。	4.15	21	18	10	4.15	2-3	○	含水率	
7		0.50		シルト	灰	灰	中位	硬質部が連続して存在する。	4.45	13	14	14	4.45	2-3	○	含水率	
8		0.30		シルト	灰	灰	中位	硬質部が連続して存在する。	5.15	6	44	20	5.15	2-3	○	含水率	
9		0.50		シルト	灰	灰	中位	硬質部が連続して存在する。	8.30	9	15	18	8.30	2-3	○	含水率	
10		0.50		シルト	灰	灰	中位	硬質部が連続して存在する。	9.30	15	18	18	9.30	2-3	○	含水率	
11		0.50		シルト	灰	灰	中位	硬質部が連続して存在する。	10.15	4	6	8	10.15	2-3	○	含水率	
12		0.50		シルト	灰	灰	中位	硬質部が連続して存在する。	11.45	19	17	50	11.45	2-3	○	含水率	
13		0.50		シルト	灰	灰	中位	硬質部が連続して存在する。	11.55	8	18	83	11.55	2-3	○	含水率	
14		0.50		シルト	灰	灰	中位	硬質部が連続して存在する。	11.55	13	14	33	11.55	2-3	○	含水率	
15		0.50		シルト	灰	灰	中位	硬質部が連続して存在する。	12.45	38	12	50	12.45	2-3	○	含水率	
16		0.50		シルト	灰	灰	中位	硬質部が連続して存在する。	13.11	1	1	11	13.11	2-3	○	含水率	
17		0.50		シルト	灰	灰	中位	硬質部が連続して存在する。	14.00	16	24	50	14.00	2-3	○	含水率	
18		0.50		シルト	灰	灰	中位	硬質部が連続して存在する。	14.30	50	18	85	14.30	2-3	○	含水率	
19		0.50		シルト	灰	灰	中位	硬質部が連続して存在する。	15.00	2	2	750	15.00	2-3	○	含水率	

ボーリング柱状図

調査名 平成23年度住委第2301-23号明野住宅MRR-4地質調査委託

事業・工事名

ボーリング名	Bo.r. No. 3		調査位置	大分市明野西1丁目		北緯
発注機関	大分県土木建築部施設整備課		調査期間	平成24年1月25日～24年3月23日		東経
調査業者名	主任技師		現場代理人	コア鑑定者		ボーリング責任者
孔口標高	47.71m	方位	北緯	270°		ハンマー落下 半自動落下
総掘進長	19.00m	角	東	90°		
ボーリングNo	シートNo		使用機種	卓邦地下工機 D0-D型 ハンマー落下用具		エンジン
			エンジン	キンマー NFD9K		ポンプ
				東邦地下工機		BG-3C



1. 調査目的
 本調査は、本工場の建設に必要とする地質調査を実施し、地質調査結果に基づき、地盤改良等の対策を講ずることを目的とする。

2. 調査場所
 本調査は、本工場の建設予定地において実施する。

3. 調査方法
 本調査は、標準貫入試験（SPT）及び地質調査を実施する。

4. 調査結果
 本調査の結果、調査地点における地質調査結果は、以下の通りである。

調査地点	地層	地質	標準貫入試験（SPT）値
調査地点1	表層	軟弱な粘土質土	10~20
		硬質な砂質土	30~40
調査地点2	表層	硬質な砂質土	30~40
		硬質な砂質土	30~40
調査地点3	表層	硬質な砂質土	30~40
		硬質な砂質土	30~40

5. 調査結果のまとめ
 本調査の結果、調査地点における地質調査結果は、以下の通りである。

6. 調査結果のまとめ
 本調査の結果、調査地点における地質調査結果は、以下の通りである。

7. 調査結果のまとめ
 本調査の結果、調査地点における地質調査結果は、以下の通りである。

調査結果のまとめ

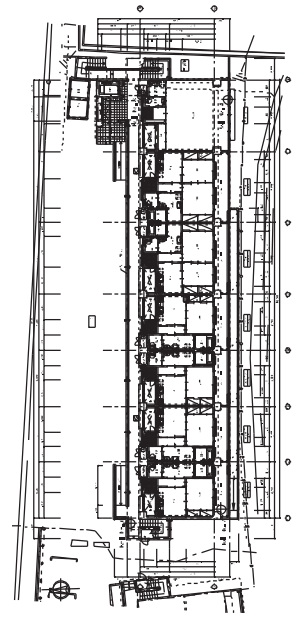
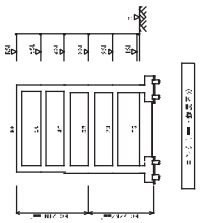
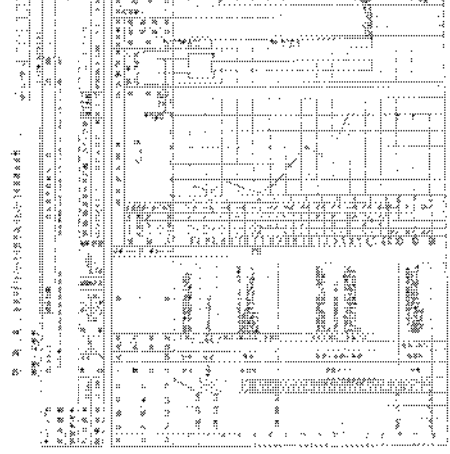
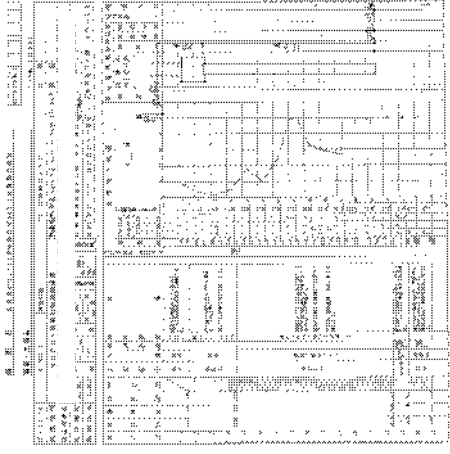
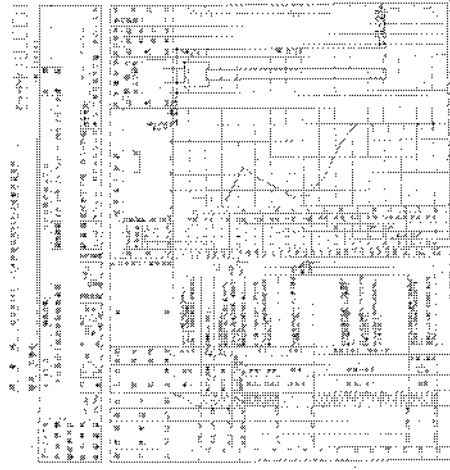
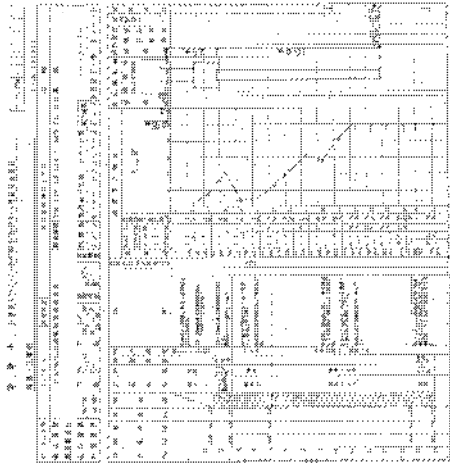
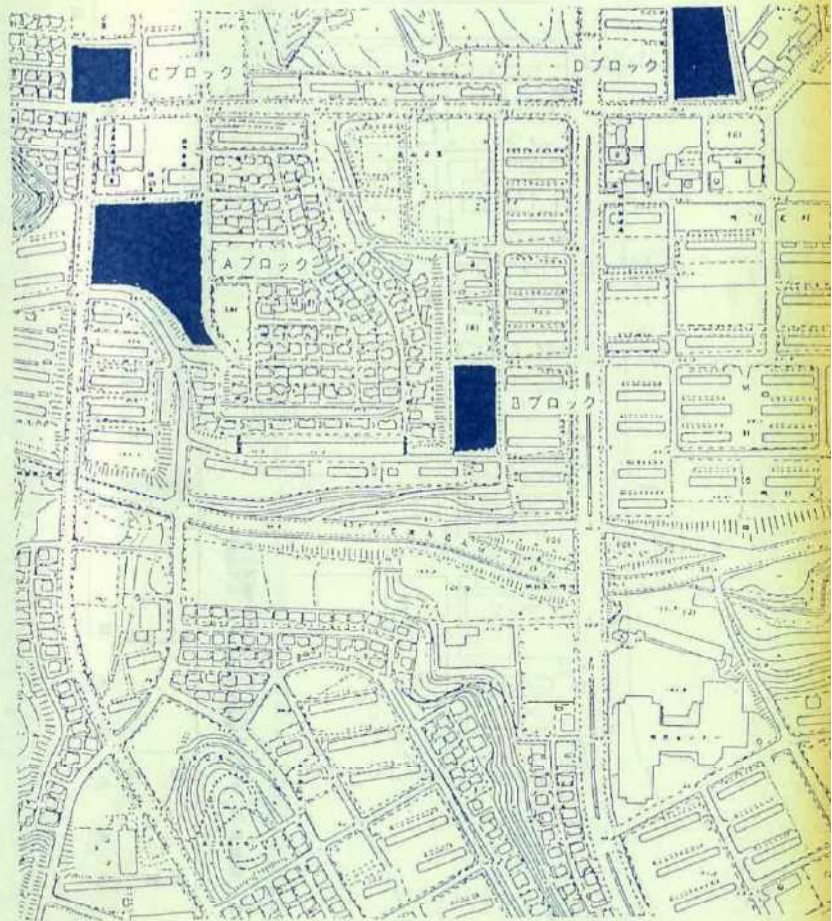


図1 本工場の平面図

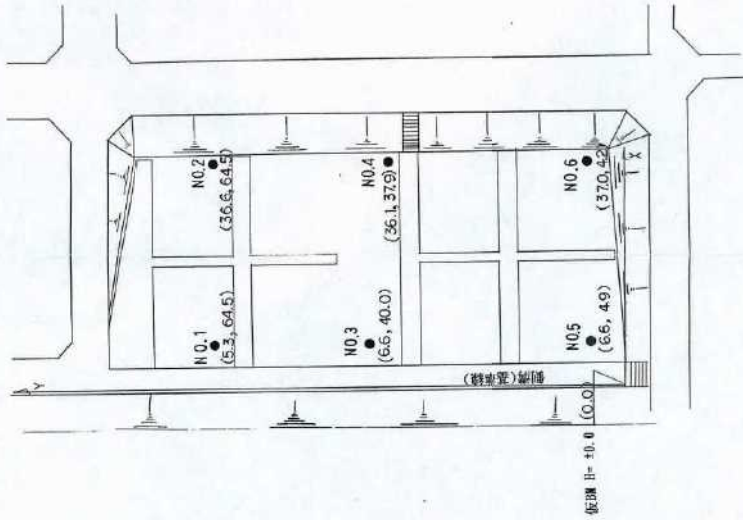
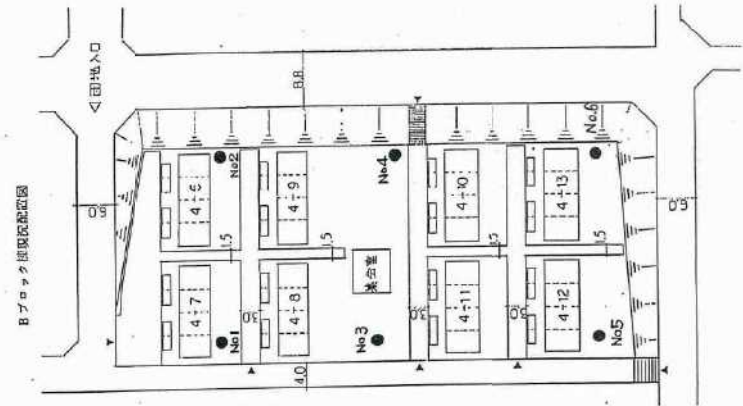




附近見取図

調査位置平面図 (Bブロック)

C-1ブロック北側



ボーリング柱状図

調査名 平成5年度県営明野住宅Bブロック新築及び明野住宅改善(増築)工事地質調査委託
事業・工事名

ボーリング名	No. 1		調査位置	北緯	
発注機関	大分県土木建築部		調査期間	平成5年5月19日～5年5月20日 東経	
調査業者名					
孔口標高	0.32m	角	180°	方	北0°
総掘進長	7.00m	度	上	向	西270° 東90°
		度	下	地盤勾配	水平0°
				使用機種	試錐機 YBM-05
				エンジン	ハンマー落上用具

標準層高	層厚	深状	柱土質	色相	対密	記	標準貫入試験		原位置試験	試料採取	掘進
							深	N値			
(m)	(m)	(m)	(m)	調	度	事	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)
-0.20	0.40	0.60	粘土	黄灰	調	粘性分多い 粘着力強い 1.6~1.8mm圓玉石有り(チャート)	1.15	5	4	5	14
-1.40	1.40	1.80	粘土	黄灰	調	φ2~20mmの角・亜角・中堅主体 全体に粘性土混入するが部分的に多い 砂は細~中粒主体	2.45	7	8	20	35
-3.42	1.95	3.20	粘土	黄灰	調	砂質粘土 シルト含有 シルト含有	3.15	7	4	3	14
-3.98	0.44	4.12	粘土	黄灰	調	粘性分多い 粘着力強い 1.6~1.8mm圓玉石有り(チャート)	4.25	9	13	7	50
-5.58	1.72	5.92	粘土	黄灰	調	粘性分多い 粘着力強い 1.6~1.8mm圓玉石有り(チャート)	5.00	9	9	9	50
-6.88	0.80	6.70	粘土	黄灰	調	粘性分多い 粘着力強い 1.6~1.8mm圓玉石有り(チャート)	6.15	14	20	16	50
-7.68	0.80	7.00	粘土	黄灰	調	粘性分多い 粘着力強い 1.6~1.8mm圓玉石有り(チャート)	7.87	13	25	15	50

ボーリング柱状図

調査名 平成5年度県営明野住宅Bブロック新築及び明野住宅改善(増築)工事地質調査委託
事業・工事名

ボーリング名	No. 2		調査位置	北緯	
発注機関	大分県土木建築部		調査期間	平成5年5月21日～5年5月24日 東経	
調査業者名					
孔口標高	0.27m	角	180°	方	北0°
総掘進長	16.00m	度	上	向	西270° 東90°
		度	下	地盤勾配	水平0°
				使用機種	試錐機 YBM-05
				エンジン	ハンマー落上用具

標準層高	層厚	深状	柱土質	色相	対密	記	標準貫入試験		原位置試験	試料採取	掘進
							深	N値			
(m)	(m)	(m)	(m)	調	度	事	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)
-0.20	0.50	0.70	粘土	黄灰	調	0.02mまでコンクリート	1.15	2	2	3	10
-1.40	1.20	1.70	粘土	黄灰	調	粘性分多い 粘着力強い	2.15	2	3	5	10
-2.70	1.30	3.00	粘土	黄灰	調	粘土全体に混入するが部分的に多い φ2~50mmで角・亜角・円筒質チャート 砂は細砂~粗砂	3.15	4	6	7	15
-4.10	1.40	4.50	粘土	黄灰	調	粘土全体に混入するが部分的に多い φ2~50mmで角・亜角・円筒質チャート 砂は細砂~粗砂	4.15	6	6	7	18
-5.28	0.80	5.50	粘土	黄灰	調	粘土全体に混入するが部分的に多い φ2~50mmで角・亜角・円筒質チャート 砂は細砂~粗砂	5.15	12	15	35	50
-6.48	1.20	7.00	粘土	黄灰	調	粘土全体に混入するが部分的に多い φ2~50mmで角・亜角・円筒質チャート 砂は細砂~粗砂	6.15	12	15	35	50
-7.18	1.80	7.40	粘土	黄灰	調	粘土全体に混入するが部分的に多い φ2~50mmで角・亜角・円筒質チャート 砂は細砂~粗砂	7.15	12	15	35	50
-8.43	1.30	8.70	粘土	黄灰	調	粘土全体に混入するが部分的に多い φ2~50mmで角・亜角・円筒質チャート 砂は細砂~粗砂	8.15	11	14	17	42
-9.83	1.40	9.90	粘土	黄灰	調	粘土全体に混入するが部分的に多い φ2~50mmで角・亜角・円筒質チャート 砂は細砂~粗砂	9.15	7	7	7	44
-10.83	1.20	9.90	粘土	黄灰	調	粘土全体に混入するが部分的に多い φ2~50mmで角・亜角・円筒質チャート 砂は細砂~粗砂	10.15	14	14	15	48
-11.73	0.90	10.80	粘土	黄灰	調	粘土全体に混入するが部分的に多い φ2~50mmで角・亜角・円筒質チャート 砂は細砂~粗砂	11.15	12	13	15	48
-12.83	1.10	11.90	粘土	黄灰	調	粘土全体に混入するが部分的に多い φ2~50mmで角・亜角・円筒質チャート 砂は細砂~粗砂	12.15	13	13	18	48
-13.83	1.00	12.90	粘土	黄灰	調	粘土全体に混入するが部分的に多い φ2~50mmで角・亜角・円筒質チャート 砂は細砂~粗砂	13.15	14	15	15	50
-14.53	0.50	13.40	粘土	黄灰	調	粘土全体に混入するが部分的に多い φ2~50mmで角・亜角・円筒質チャート 砂は細砂~粗砂	14.15	13	13	18	48
-15.17	0.67	13.97	粘土	黄灰	調	粘土全体に混入するが部分的に多い φ2~50mmで角・亜角・円筒質チャート 砂は細砂~粗砂	15.15	13	13	18	48
-16.17	0.80	14.77	粘土	黄灰	調	粘土全体に混入するが部分的に多い φ2~50mmで角・亜角・円筒質チャート 砂は細砂~粗砂	16.15	20	21	5	50
-17.17	0.80	15.57	粘土	黄灰	調	粘土全体に混入するが部分的に多い φ2~50mmで角・亜角・円筒質チャート 砂は細砂~粗砂	17.15	11	11	15	50
-18.17	0.80	16.37	粘土	黄灰	調	粘土全体に混入するが部分的に多い φ2~50mmで角・亜角・円筒質チャート 砂は細砂~粗砂	18.15	11	11	15	50
-19.17	0.80	17.17	粘土	黄灰	調	粘土全体に混入するが部分的に多い φ2~50mmで角・亜角・円筒質チャート 砂は細砂~粗砂	19.15	11	11	15	50

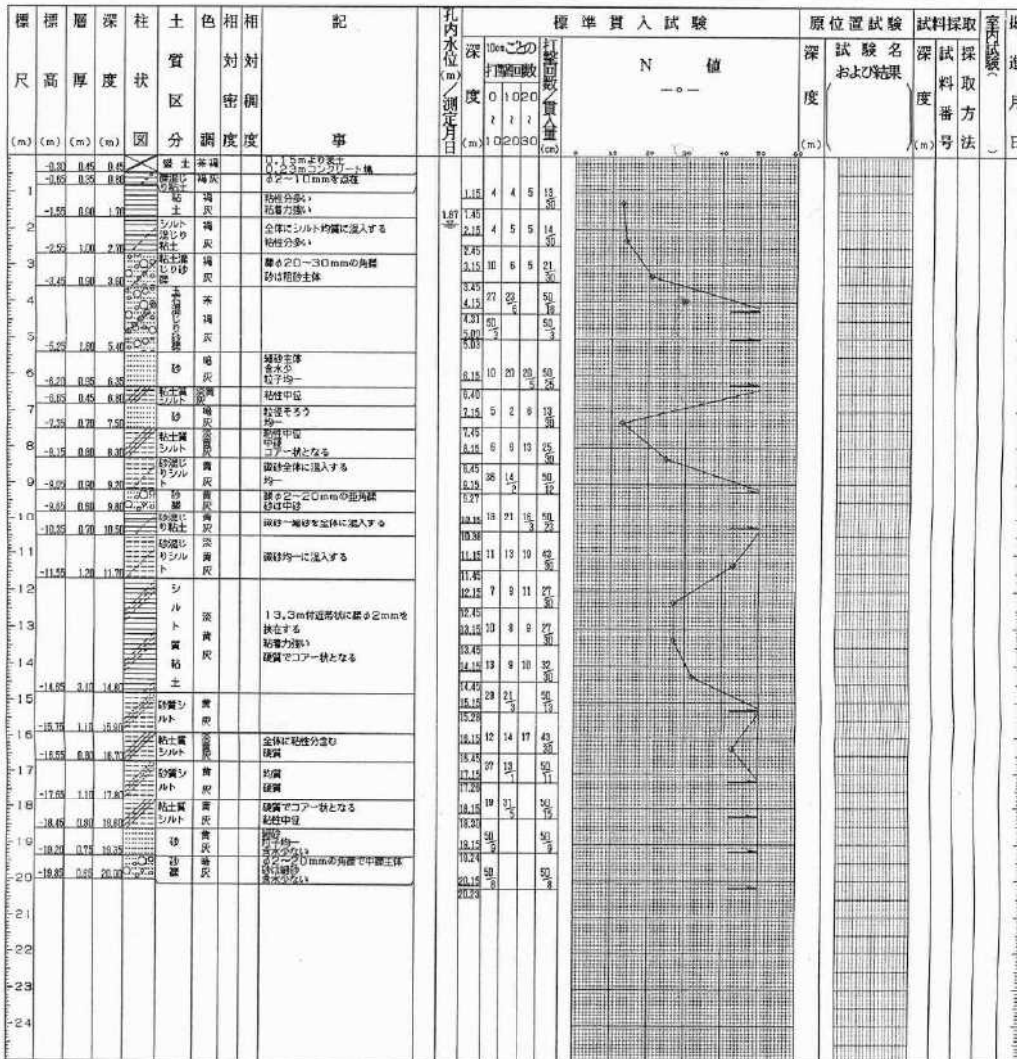
ボーリング柱状図

調査名 平成5年度県営明野住宅Bブロック新築及び明野住宅改善(増築)工事地質調査委託

ボーリングNo.

事業・工事名

ボーリング名	No. 3		調査位置	北 緯	
発注機関	大分県土木建築部		調査期間	平成 5年 5月26日 ~ 5年 5月27日 東 経	
調査業者名					
孔口標高	0.15m	月 度			
総掘進長	20.00m	度			
試験機	YBM-05		ハンマー	落下用具	
エンジン			ポンプ		



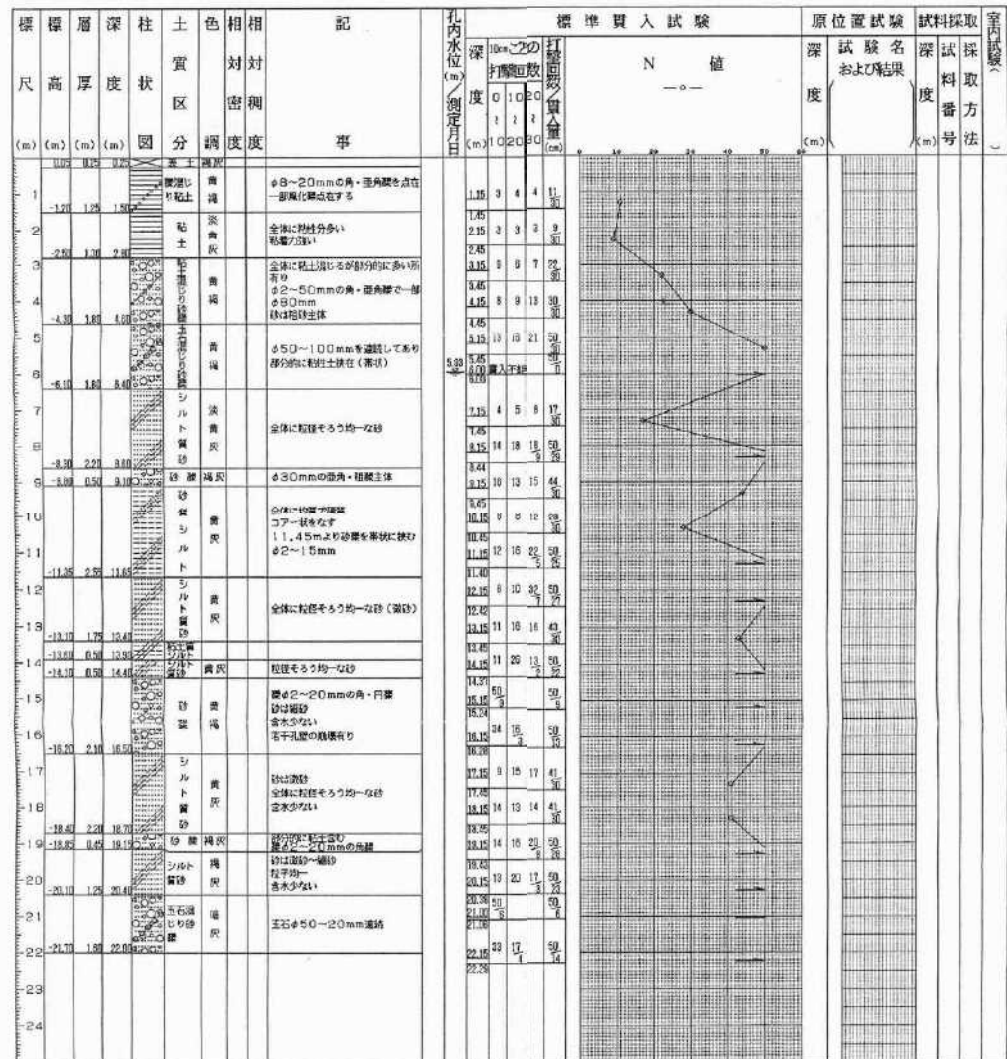
ボーリング柱状図

調査名 平成5年度県営明野住宅Bブロック新築及び明野住宅改善(増築)工事地質調査委託

ボーリングNo.

事業・工事名

ボーリング名	No. 4		調査位置	北 緯	
発注機関	大分県土木建築部		調査期間	平成 5年 5月26日 ~ 5年 5月31日 東 経	
調査業者名					
孔口標高	0.30m	月 度			
総掘進長	22.00m	度			
試験機	YBM-05		ハンマー	落下用具	
エンジン			ポンプ		



ボーリング柱状図

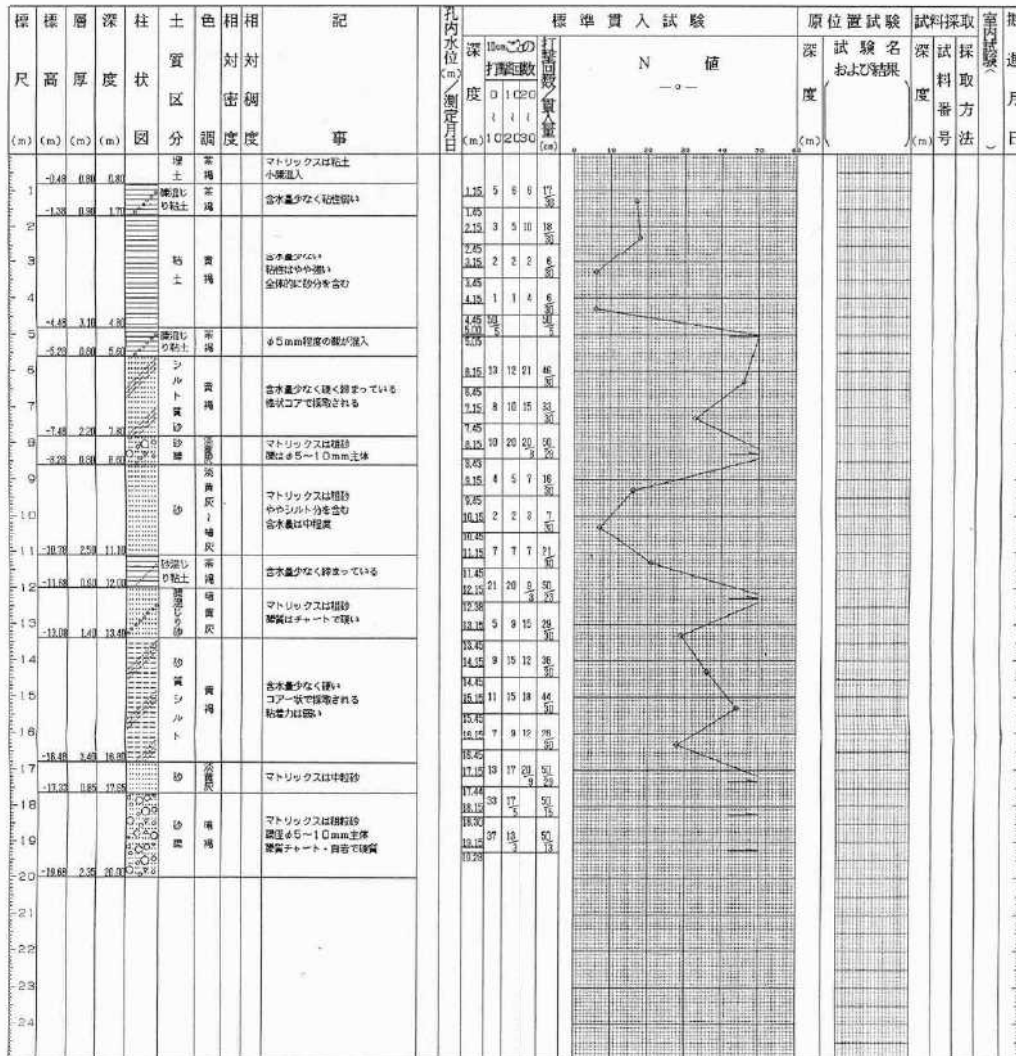
調査名 平成5年度県営明野住宅BCブロック新築及び明野住宅改修(増築)工事

ボーリングNo.

--	--	--	--	--

事業・工事名

ボーリング名	No. 5	調査位置	Bブロック	北緯
発注機関	大分県土木建築部		調査期間	平成 年 月 日 ー 年 月 日 東経
調査業者名				
孔口標高	0.20m		試錐機	ハンマー
総掘進長	20.00m		エンジン	ポンプ



ボーリング柱状図

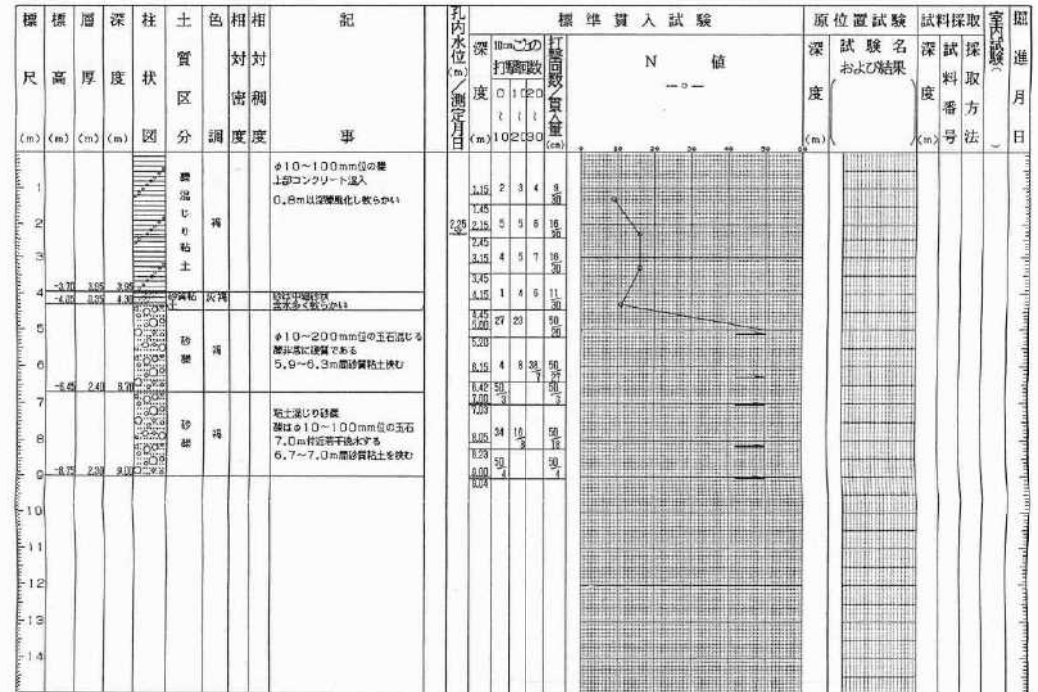
調査名 平成5年度県営明野住宅BCブロック新築及び明野住宅改修(増築)工事地質調査委託

ボーリングNo.

--	--	--	--	--

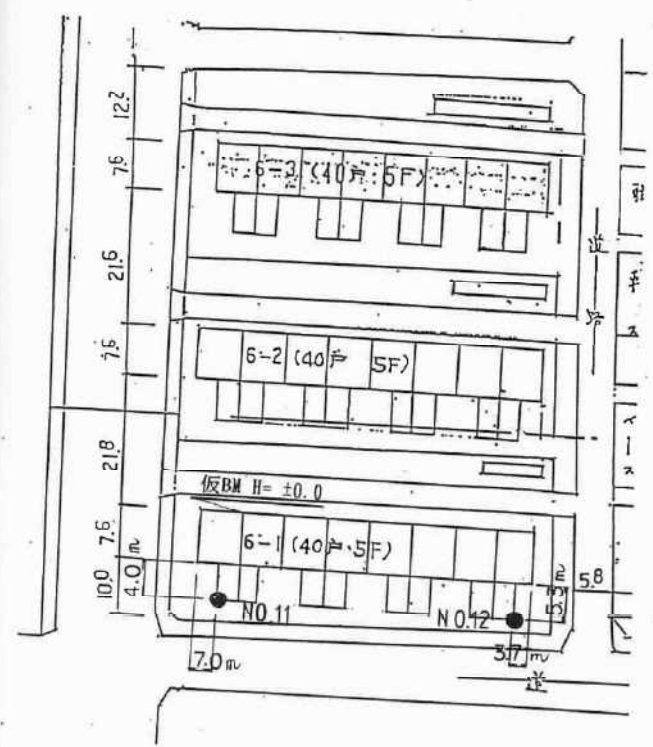
事業・工事名

ボーリング名	No. 5	調査位置	Bブロック	北緯
発注機関	大分県土木建築部		調査期間	平成 5年 5月28日 - 5年 6月 1日 東経
調査業者名				
孔口標高	0.20m		試錐機	ハンマー
総掘進長	20.00m		エンジン	ポンプ



調査位置平面図 (B-1ブロック)

Dブロック6-1棟



ボーリング柱状図

平成5年度富山県明野住宅Bブロック新築及び
ひが明野住宅改修(増築)工事地質調査委託

調査名

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No. 11		調査位置	北緯	
発注機関	大分県土木建築部		調査期間	平成 5年 5月 17日 ~ 5年 5月 20日	東経
調査者名	主任技師		現場	コ	ボーリング
ボーリングNo.	11.00m	1.53m	現代理人	ア	責任者
調査者名	角 度		試験機	ハンマー	
ボーリングNo.	11.00m	1.53m	ボーリング	落下用具	
調査者名	方 向		ボーリング		
ボーリングNo.	11.00m	1.53m	ハンマー		
調査者名	地盤勾配		落下用具		
ボーリングNo.	11.00m	1.53m	ハンマー		
調査者名	水準0°		落下用具		
ボーリングNo.	11.00m	1.53m	ハンマー		
調査者名	水準0°		落下用具		
ボーリングNo.	11.00m	1.53m	ハンマー		
調査者名	水準0°		落下用具		

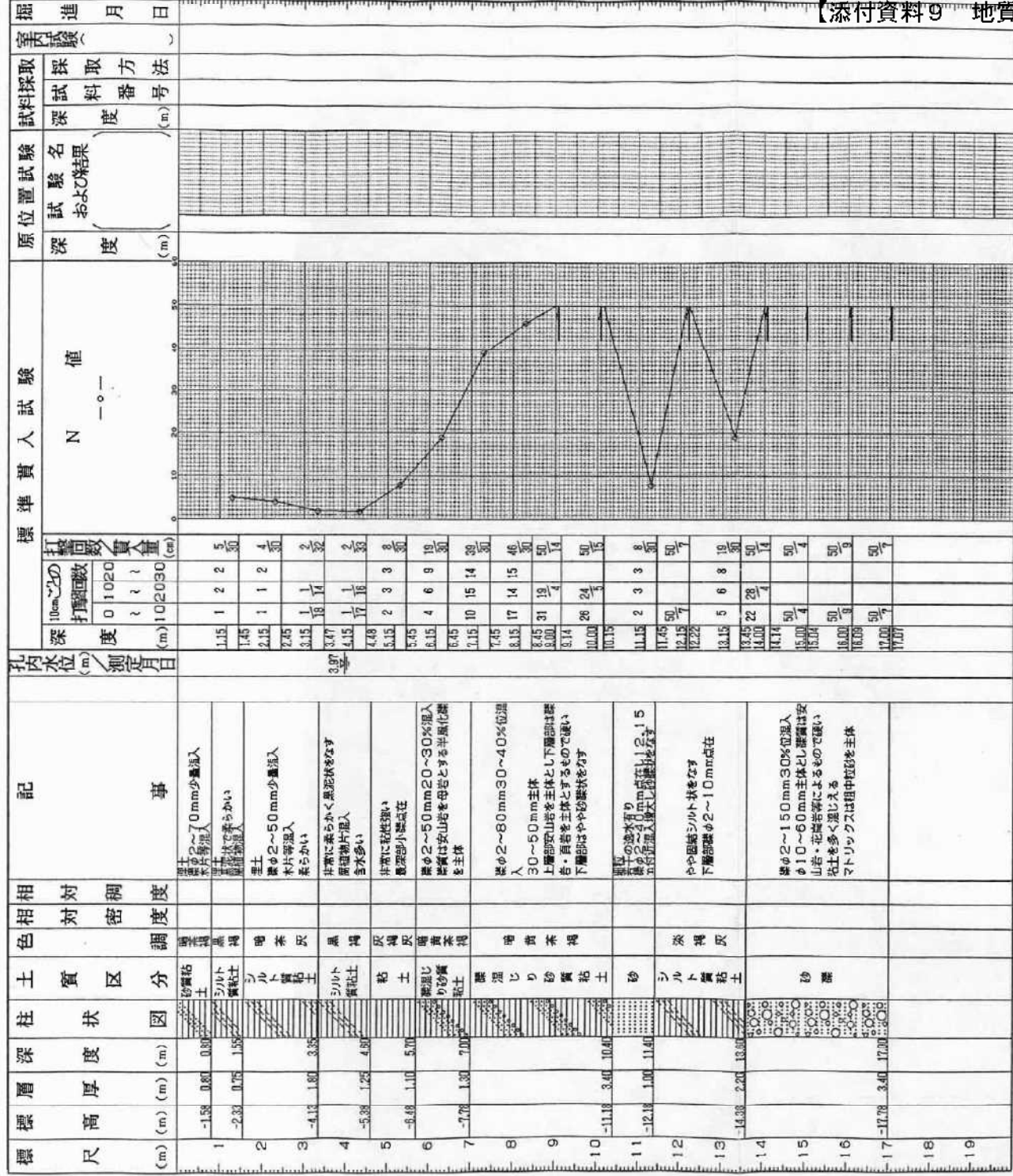
標尺	層厚	柱状図	土質区分	色相対密度	相対密度	記 事	孔内水位 (m)	測日	標準貫入試験	試験名	原位置試験	試験採取	掘進月日
(m)	(m)	(m)							N 値	および結果	深度 (m)	採取方法	
1	0.00 ~ 1.53	砂質粘土	時赤灰			埋土 層の2~70mm20~30%混入 層質は安山岩を母岩とする玉石主体 下層部含水や多く茶んかい	3.02		1.15		0	採取方法	
2	1.53 ~ 2.70	シルト質粘土	黒			粉状に置き柔らかい 層質は安山岩を母岩とする玉石主体 下層部含水や多く茶んかい			1.45		4		
3	2.70 ~ 4.23	シルト質粘土	時赤灰			層質は安山岩を母岩とする玉石主体 下層部含水や多く茶んかい			2.47		2		
4	4.23 ~ 5.15	シルト質粘土	時赤灰			層質は安山岩を母岩とする玉石主体 下層部含水や多く茶んかい			3.15		3		
5	5.15 ~ 5.85	砂質粘土	時赤灰			層質は安山岩を母岩とする玉石主体 下層部含水や多く茶んかい			3.45		4		
6	5.85 ~ 6.15	砂質粘土	時赤灰			層質は安山岩を母岩とする玉石主体 下層部含水や多く茶んかい			4.15		6		
7	6.15 ~ 6.85	砂質粘土	時赤灰			層質は安山岩を母岩とする玉石主体 下層部含水や多く茶んかい			4.45		7		
8	6.85 ~ 7.45	シルト質粘土	時赤灰			層質は安山岩を母岩とする玉石主体 下層部含水や多く茶んかい			5.15		8		
9	7.45 ~ 8.45	砂質粘土	時赤灰			層質は安山岩を母岩とする玉石主体 下層部含水や多く茶んかい			5.85		5		
10	8.45 ~ 10.33	砂質粘土	時赤灰			層質は安山岩を母岩とする玉石主体 下層部含水や多く茶んかい			6.15		5		
11	10.33 ~ 11.86	シルト質粘土	時赤灰			層質は安山岩を母岩とする玉石主体 下層部含水や多く茶んかい			6.85		6		
12	11.86 ~ 13.90	シルト質粘土	時赤灰			層質は安山岩を母岩とする玉石主体 下層部含水や多く茶んかい			7.45		17		
13	13.90 ~ 14.43	シルト質粘土	時赤灰			層質は安山岩を母岩とする玉石主体 下層部含水や多く茶んかい			8.15		1		
14	14.43 ~ 15.53	シルト質粘土	時赤灰			層質は安山岩を母岩とする玉石主体 下層部含水や多く茶んかい			8.45		30		
15	15.53 ~ 17.03	シルト質粘土	時赤灰			層質は安山岩を母岩とする玉石主体 下層部含水や多く茶んかい			9.00		7		
16	17.03 ~ 17.53	シルト質粘土	時赤灰			層質は安山岩を母岩とする玉石主体 下層部含水や多く茶んかい			9.00		17		
17	17.53 ~ 18.00	シルト質粘土	時赤灰			層質は安山岩を母岩とする玉石主体 下層部含水や多く茶んかい			9.00		3		

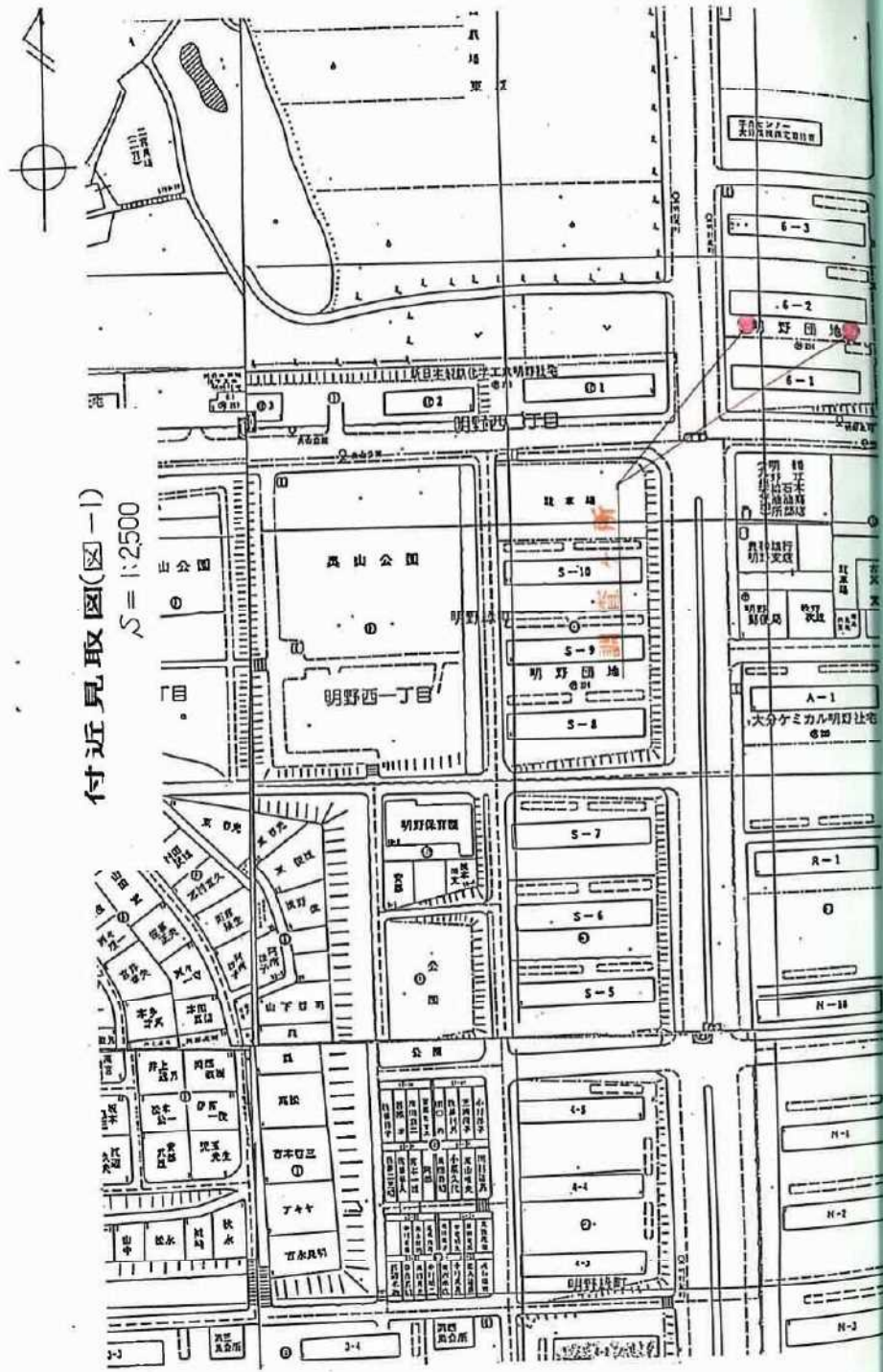
ボーリング柱状図

調査名 平成5年度興業町野住宅BGPプロジェクト新築及び
 調査位置 大分県土木建築部

事業・工事名

ボーリング名	No. 12	調査位置	大分県土木建築部
発注機関	調査期間	平成5年5月22日～5年5月26日	北緯
調査業者名	現代理人	コア鑑定者	東経
ボーリングNo.	現場代理人	ハンマー 落下用具	ボーリング 責任者
ボーリングNo.	試験機器	エンジン	
ボーリングNo.	停止機種		
ボーリングNo.	方位	北緯 90°東 90°西	
ボーリングNo.	角	180°上 90°東 0°下	
ボーリングNo.	度		
ボーリングNo.	孔口標高	-0.79m	
ボーリングNo.	総掘進長	17.00m	





ボーリング位置図(図-2)
S = 1:500

